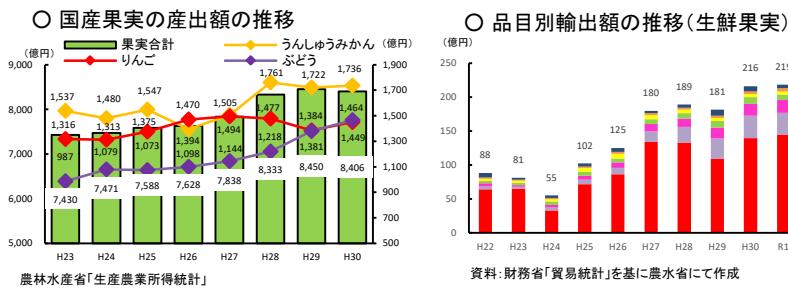


新たな果樹農業振興基本方針について

<現 状>

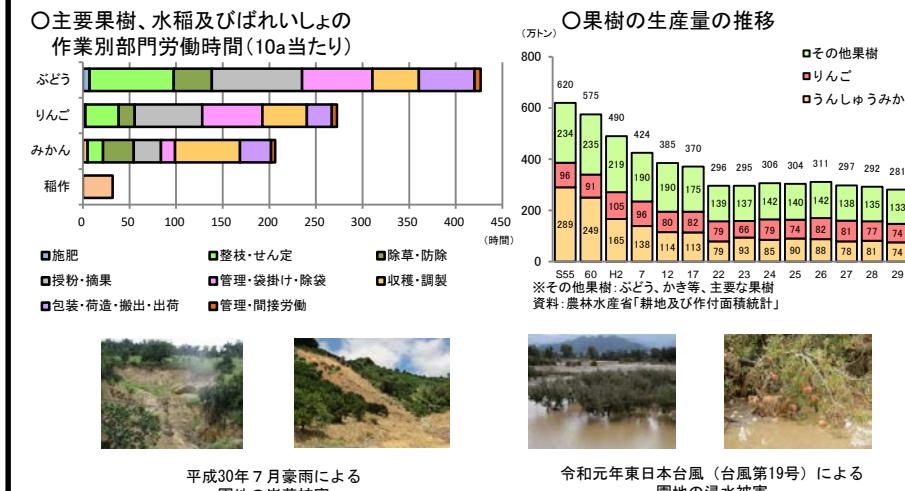
果樹農業の魅力と重要性

- 優良品目・品種への改植等が進んでいること等を背景に、高品質な国産果実の生産が行われており、国内外において高い評価を受けている。
- 輸出品目としても高いポテンシャルを持っており、令和元年には生鮮果実の輸出額が過去最高の219億円を記録。



果樹農業の現状と課題

- 他の作物と比較して労働時間が長く、かつ、労働ピークが収穫等の短期間に集中する労働集約的な構造のため、
園地の集積・集約化、規模拡大が進んでいない。
- 果樹の販売農家は10年で2割減少。60歳以上がその約8割を占め、高齢化が深刻。
生産現場の人手不足等により生産基盤がぜい弱化し、
人口減少による需要の減少を上回って生産量が減少。
- 近年頻発している大規模自然災害や気候変動による栽培環境の変化、鳥獣・病害虫等の様々なリスクが存在。



流通・加工面における課題

- 集出荷、輸送等の食品流通においても人手不足が深刻化。
- カットフルーツや醸造利用等の新たな加工ニーズがあるものの、生産量の減少等により、国産加工原料用果実の確保が年々困難となっている。

<施 策 の 方 向>

果樹農業の振興に向けた基本的考え方

供給過剰基調に対応した生産抑制的な施策から、**低下した供給力を回復し、生産基盤を強化**するための施策に転換する。

生産現場における対策の推進

○ 果樹の生産基盤を強化するため、

- ①省力樹形等の導入による労働生産性の抜本的な向上
- ②園地・樹体を含めた次世代への円滑な経営継承
- ③苗木・花粉等の生産資材の安定供給体制の整備

等を推進。

○ 様々なリスクへの対応力を強化するため、

- ・防災・減災の観点からの基盤整備の推進、
- ・気候変動等に対応した技術・品種の開発・普及
- ・収入保険や果樹共済といったセーフティネットへの加入

等を一層推進。

<生産数量目標>

(単位:千トン)

	うんしゅうみかん	りんご	ぶどう	なし	もも	果実合計
平成30年度	774	756	175	259	113	2,833
令和12年度目標	784	819	210	288	124	3,083

市場拡大に向けた対策の推進

- 食の外部化・簡便化等に伴う消費者ニーズの多様化・高度化に対応し、「より美味しい、より食べやすく、より付加価値の高い」果実及び果実加工品の供給拡大を推進。

- 輸出拡大に向けた生産力の増強と輸出先国・地域の規制や条件に対応するための環境整備等を推進。

流通・加工面における対策の推進

- 出荷規格の見直しやパレット流通体制の構築等の省力的・効率的な果実流通への転換を推進。
- 新たなニーズに対応した国産の加工原料用果実の生産・供給拡大を推進。

